

9月号

第484号

いっしん

令和7年(2025年)

なよ竹の
すぐなる心
その中に
木にもゆずらぬ
力をぞ見る

甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師御教

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL/FAX 0995-62-2895
Mアドレス hittobe.konkaji@gmail.com (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/《HPの「いっしん」はカラーで見れます》

立教166年／小倉教会布教140年／甘木親教会布教121年／加治木教会布教74年

南九州教区梯団で
第78回 少年少女全国大会「かがやけ大行進」をおえて記念撮影
令和7年8月10日



加治木教会

多良木教会

南関教会

萩原教会

第78回 少年少女全国大会参拝

八月九日(土)～十一日(月)

「みんなでお礼参拝」とのかけ声のもと元気に参拝のおかげを蒙らせていただきました。

今回は、出発前日の八日の豪雨災害で、信奉者家庭にも床上浸水があり、後ろ髪を引かれるような思いで発させていただきました。

十七時半から始まる「霊地夜まつり」に、去年は少し遅れたため選ぶメニューがなくなっており、今回は間に合うよう少し急ぎ十八時にご霊地に到着し何とか間に合いました。

まず会堂広前に参拝させていただきました。神様に無事の到着を御礼申し上げ、「霊地夜まつり」に参加させていただきました。甘木親教会出店のフードコートでぜんざいやわらび餅をいただき、他のフードコートも回り、焼きそばやおにぎりなどの食事を会堂地下でゆっくりといただきました。

(次ページにつづく)

第78回

少年少女全国大会参拝

八月九日(土)～十一日(月)

宿泊は、今回は金光学園臨時宿泊所で、心配のエアコンも十分効いてぐっすりと休ませていただきました。十日の朝、元気なメンバーは、午前三時五十分の金光様お出ましお迎えに出らせていただき、教主金光様とともに御祈念を仕えさせていただきました。

午前十時から会堂において、教主金光様ご祭主のもと、月例祭がお仕えになれば、ご祭典後、少年少女会連合本部長の原田恵一郎先生(神戸市・常盤木教会)が「三代先の安心」という講題で「ご教話を仕えられました」。

(原田先生は、鹿児島地方連合会の「青年の心」に「十数年前に来た」ことあり、加治木教会の親先生とは学院同期生で距離の関係)
十一時からの「かがやけ大行進」にも「南九州梯団」で行進させていただき、熊本県の萩原教会・南関教会の皆さんと記念撮影をしました。

祭場の通路で「作品展」の展示があつており、加治木教会から出品していた福元美央さん(小五)の習字を

見らせていただきました。「作品展」には「チャレンジカード」も、加治木教会で取り組んだ、八人の皆さんの分も展示されていました。



2月の例会で作った凧(たこ)



福元美央さんの作品



また、二月の少年少女会の例会で作らせていただいた「凧(たこ)」も展示されていました。
午後一時四十五分からの、祭場で「五代金光様追悼式」では、五代金光様(金光平輝様)をお呼びさせていただきました、続いている「式典」では、



チャレンジカードも、よその教会のおともだちといっしょに楽しんでおりました

現教主金光様ご夫妻への、わかばの代表による花束贈呈や、大会旗・会旗群入場が続いて、継続登録会、作品展入選、チャレンジカードの表彰がありました。

チャレンジカードの表彰は大会前、加治木教会に電話で子供の殿上表彰者の打診がありました。今回は該当者の参拝がなく残念でした。

午後三時頃に、ご霊地を出発し「しまなみ海道」(広島県尾道市と愛媛県今治市間の七つの島々を結ぶ自動車専用道路)を通り愛媛県に入り旅館に宿泊させていただきました。

*

翌十一日は、宇和島フェリーに乗るため早めに旅館を出発し、愛媛県八幡浜港から大分県別府に渡り、途中湯布院で休憩し昼食を頂きました。この日は、九州縦貫道に通行止めが多く、阿蘇外輪山のミルキーロード通って益城町・甲佐町を通り八代方面へ向かいました。

途中、浸水の跡や土砂崩れによる通行止めが多く、前日の豪雨の激しさに驚かされ、八代市内の三号線では、災害復旧工事渋滞のため、数キ

ロを抜けるのに三時間ほどかかり、加治木教会に帰り着いたのは午前〇時三十分でしたが、けが過ちな無事帰り着かせていただき、有り難いことでありました。



霊地夜まつりが始まる頃に到着 8月9日



10日ご霊地出発後しまなみ海道を通過して四国公



宇和島フェリーにて(八幡浜→別府) 8月11日



『私のいただく安武松太郎師』

(矢野政美著 昭和五十六年
十二月発行)

安武松太郎師

五、入信後十年のできごと

安武恩師によって、天地金乃神様の御神徳を悟り、生神金光大神御取次の尊さを身をもって感受した母は、それからは、教会参拝を唯一の楽しみとし、昼夜の別なく信心の稽古に余念がありませんでした。

生来「一心」に物事を貫くという性格でありましたので、いかなる時にも、ただ、「親先生、四神金光大神様、生神金光大神様」と御取次を願いつつ、すべてのうえに大みかげを蒙らせていただいていたました。

その例を二・三あげれば、次のようなことがあります。

入信前に授かった胎児は流産また

は死産でありましたが、その後は安産のおかげを蒙らせていただきました。日を追って、父も元の健康な身体になり、夫婦心を合わせて家運の挽回を夢見つつ、信心家業にいそしませていただきました。

ある夏の日、母はせつせと田の草取りに励んでいました。正午の時報が鳴るまで顔を上げなかったのとことでありますが、指先にチカツと痛さを感じたので、手を上げてみると、一匹の蛇が指先に咬みついて離れませんでした。母は古者から「蛇に咬まれたら金持ちになる」ということを聞かされていましたので、てっきり「これは金持ちになしていただくお知らせだろう」と思ったとのことでした。それが、実は「まむし」であつたことがわかり、止血をして傷口に御神米を頂き、包帯をして、そのまま医者にも行かずおかげを頂いたと物語っていました。

また、兄一雄（明治四十年十一月五日生）が四歳の折、近所の久蔵という三つ年上のいとこと外の間で、戯れながら相撲を取っていた時に強く土間に投げ落とされました。その

途端ボキツと音がして足の骨を折ったのです。

ちょうど母は三奈木の実家に用件のために行っていました。その急報を受け、取るものもとりのあえずとんで帰り、その足でお広前へ走り込み、親としての子どもに対する養育上の不注意を深くお詫び申し上げ、万事よろしくとお願い申し上げ、我が子を投げ落とされた相手の子に対する恨みは、いささかもありませんでした。

安武恩師の厚き御取次により、この兄もそのまま骨折した足に御神米を貼らせていただき、包帯をして一ヶ月ほど床に就きましたが、今日は一歩、翌日は三歩と、日ましに回復し全快のおかげを蒙らせていただきました。

兄は自分が歩けるようになったのがよほど嬉しかったのでしよう、幼児にもかかわらず一生懸命小さな手で藁縄をなつて、丸いつぐり（毛糸をまるく巻くように藁縄をまゆ形にしたもの）にし、教会ご建築にお供えさせていたところ、安武恩師はたいそう喜んでくださったとの

ことです。

兄のことで今ひとつおかげを蒙らせていただいたことがあります。兄は生まれながらに額に、当時の一銭銅貨くらいの「ホグロ」がありました。母はそのことがふびんに思えてならず、ある日安武恩師に、「一雄が今は小さいから何とも思っておりますが、小学校へ上がるようになりますと、人から笑われたりして恥ずかしい思いをすることがございますよう。何とぞ、できることでございますなら、あのホグロを取っていただくことはできませんでしょうか」と、思いつめた面持ちで御取次を願いました。

それをお聞きになった恩師は、「親神様は、この身体のお造り主で、いわば製造元であらせられる。何も無いところから、こんな切れば血の出る肉体をお恵みくださったのだから、ホグロの一つや二つ取って下さることに、造作はなかりう。しかし、取ってしまったら、あなたでは、一雄さんが成長して、あなたは小さいときにホグロが額にあったのを神様にお願ひして取っていただ

いたんだよと言っても、そんな馬鹿なことがあるもんかと言って信用すまい。そこで、神様にお願ひ申し上げて、後で証拠になるように、そのホグロが他のところへ宿替えるようにお願ひ申し上げよう」

と仰せられ、お願ひしてくださいましたが、それから数ヶ月たつうちに、額のホグロがだんだん薄くなって、後には、きれいに拭ったように無くなりました。

「ああおかげ頂いた」と思っていますと、こんどは右の首筋の、ちょうど着物の襟で隠れるところにホグロができました。

このことについて、このようなことがあったと母が語っていましたのは、その兄のホグロが宿替えさせていただいたという噂が広がってあったので、約三軒ほど離れた一里塚というところに、姉川氏という竹細工を業としている人がいました。父が養蚕に使う竹籠を注文していたのを、でき上がって弟子の人が届けに来てくれましたが、うっかりして名前を聞くのを忘れて困っていました。が、「ホグロが宿替えした家」を思い

出して、「もしもし、この辺でホグロが宿替えした家はどこでしょうか」と、ちょうど家の前で尋ねたので、「はいはい、ここですよ」と、受け取ったとのことあります。

右は当時、安武恩師の御取次によって蒙らせていただいたおかげの一例であります。財の余裕もなかった暮らしの中で、「神様、親先生」とただ一心におすがりさせていたとき、かくみかげを頂いたのであり、まことに勿体ないことあります。

ある時、父は家が困窮していたので、当時好景気を呈していた筑豊の炭鉱に行って働きたいと言ひ出しました。

すると母は、「炭鉱に行くなら、あなた一人で行ってください。私はどうしても、この甘木のお広前のそばを離れたくありません」と言ったので、父も炭鉱行きを思い止まったとのことあります。

後になりましたが、明治三十六年出生の長女クニエは、翌三十七年一月一日、はかない命を閉じており、さらに、大正二年二月十五日には、次女春子が齡四才でふとした風邪が

もとでジフテリアに罹り、短い命を絶っています。母は愛する者を失うことの悲しみを、身をもって味わったのであります。

かかる中にも、恩師の厚き御取次によって、傾いていた家運も次第に立ち直らせていただきましたが、その頃から、再び父の遊蕩が始まり、せっかく手に入れさせていただいた田畑もまた人手に渡るようなことになりましたが、母はそれを神様よりのご試練と受けて、信心の稽古に励み、夜食べる米がなくても、ご理解に耳を傾けお結界の前を動かさずしてました。

ある時父は、友人から「矢野君、君は家内を拝まんといかんで、家内のおかげで今のような裕福な家になったのだから」と言われました。父は、「そうだ、俺はいつも心の中では、家内を拝んでいる」と、答えたとのことであります。

一方、母の方では、「私は主人を拝んでおります。主人が若いときに放蕩をついてくれたおかげで、この尊い親神様にめぐり合せていただいたのですから」と、夫婦が心の中では、

互いに拝み会っての日常生活であったのです。



矢野クラ刀自
(昭和9年 53才)



矢野仁吉郎翁
(昭和9年 55才)

兄の少年時代は、いわゆるどん底生活でありました。農家であつて米がないので、毎日一日分の唐米を買いにやらされたとのことでした。

ある日のこと、米を買つての帰り、石につまずいて転んだはずみに、唐米が道いっぱい散乱しました。

通りがかりの人が、それを見て笑

われました。兄は情けない思いで泣いて帰ってきたそうですが、母も切ない思いをしたことではありません。また、村で秋に催されていきました野芝居とか、種々の興行には、裕福な家の方が上等の席を取り、貧しい家は隅の方の末席でありました。当時は、差別待遇がはなはだしいものでした。

父は再度の不行状をお詫びし、改まらせていただき、私(政美)の少年時代には、兄のような体験はありません。(兄と九つの年齢差あり)以上のほかに、いろいろのでき事があったと思いますが、聞き覚えの一端を記させていただきます。

(つづく)

来年、令和八年は加治木教会布教七十五年のお年柄であります。五月十七日(日)には記念大祭をお仕えさせていただきますことに致しております。その記念事業として『わたしのいたたく安武松太郎師』(矢野政美著)を加除訂正し、若い人たちにも読みやすい言葉づかいに改め、再版させていただくことを考え準備を進めております。

鹿児島地方教会連合会 主催

夏の集い 開催される

八月十七日(日)鹿児島教会において、連合会主催「夏の集い」が開かれました。

今回は、薩摩焼絵付け体験を柳信一郎さん(「紫陶」窯元)ご指導のもと体験させていただきました。

最初に柳信一郎さんから、薩摩焼の歴史をはじめ白薩摩と黒薩摩のちがいなどについて説明があり、指導を受けながら絵付けにチャレンジしました。

いろんな絵柄の皿やカップができました。

小学生には「薩摩焼大研究」という薩摩焼の歴史や特徴、絵付け体験をしての感想などを書き込み完成させ、自由研究として提出できる記入用紙も準備されていました。

午後は、ペットボトルを再利用してトンボとチョウを組み立ててアクリル絵の具やマッキーペンで色を塗り、柳信一郎さんはじめ三人の審査員で、芸術作品などが選ばれていました。県内各地から四十七名の皆さんの

参加がありました。



窯元 柳さんが
トンボを優秀と評価!



白薩摩の芸術作品がたくさんできあがりました



トンボの色塗り
ほめられました

教会南側外壁 修理終わる

修理終わる

昨年、加治木教会の老朽化が第一の原因ですが地震と台風により、教会建物南側（裏側）の二階部分の外壁のモルタルが剥がれ落ちました。

その際、教内各方面から、一方ならぬご祈念・ご支援を賜り、大変有り難いことでありました。

このたび、一年となろうとする七月末に、二階部分の外壁の修理を完了しました。

一階部分は、多少残ってはいませんが、足場を設置しての工事は完了しました。

工事を開始した時に、想定外の一ヶ月ほど早い梅雨入り宣言で、工事が遅れ、六月にはひどく吹き込む風邪で「マイコプラスマ肺炎でしょうね」という医師の診断で一時作業（工事）を休止しました。

また、月例祭・加治木教会はじめ隣接教会等のご大祭や諸御用の間は休み、ようやく一年が過ぎようとする、七月末に二階部分の外壁修理が完了となりました。

良い復興支援活動（大工仕事）の、実地練習となりました。というのも、人吉市を流れる球磨川が氾濫した「令和二年七月豪雨」では、復興支援活動で人吉教

会にて、いろいろな作業を手伝わせていただき、甘木教会の御用奉仕者の皆さんや宮大工の中山さん（木山教会 信徒代表）たちから、種々の復旧工事（大工仕事 内装等）の勉強をさせてもらいました。大変役立つこととなりました。

また、改めて、教内各方面からの、心温まる多くのご祈念・ご厚情・ご支援、有り難く思わせていただいております。さらに、足場材の鋼管などは甘木親教会からお借りし、建築の専門的知識を持った方々のご助言やご協力の賜物でもあり、たいへん有り難いことでした。



5月4日

高所の作業となるため甘木親教会から足場材をお借りしてきて安全に作業に当たる



7月28日



4月19日



7月13日



7月19日



4月13日



4月19日

ままごころ運動

折り鶴 一六三五羽

古切手 八四枚

古テレカ二枚

集まりました。

ご協力ありがとうございました。折り鶴は、わかば祭にお供えされ、広島・長崎の平和記念公園に贈られます。

バンド練習!

来年は、加治木教会の布教75年記念大祭です。少年少女会でバンド演奏させていただきますために、ふたたび練習を開始させていただきました。さっしませう!



九月のご霊神様のお立日

中島時彦之霊神	昭和62・09・02
平島信彦之霊神	昭和20・09・03
前田満之霊神	昭和42・09・03
庄村ミサ之霊神	昭和42・09・05
桐野仲太郎之霊神	昭和10・09・09
汰木スエ之霊神	昭和55・09・12
平島道雄真道別彦之霊神	昭和09・09・20
大重美知子刀自之霊神	令和2・09・21
大重為廣之霊神	昭和24・09・22
汰木節夫之霊神	平成27・09・22
西本ハル子之霊神	平成17・09・25
桐野整之霊神	昭和45・09・28

ご先祖のご霊神様の、現世・幽冥かくりよまでのお働きあつての今日の私たちであります。
立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。
教会では、十日の月例祭時に、ご霊前で靈祭詞が奏上され、玉串の奉てんを準備しています。

「いっしん」六月号

御大祭のご話中に編集の誤り(ミスプリ)がありました。

○ 世は徳に乗って渡れ

× 世は特に乗って渡れ

お詫び申し上げます。

感詠 (教会長)

広島の記念式典年ごとに

意味深まれど戦争絶えず

畏怖をもて観る眼生まれる雨風の
猛威のあとを見るたびごとに

虫の音が窓の外から聞こえくる

季節うつろう天地尊し

あしあと

加治木教会行事記録

8月

- 1 (金) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (土) 甘木親教会参拝
- 7 (木) 清掃御用 10時
- 8 (金) ●月例祭(天神祭、併せて) 10時半
- 9 (土) 少年少女全国大会 第一日出発
- 10 (日) 少年少女全国大会 第二日
- 11 (月) 少年少女全国大会 帰着
- 16 (土) 福山家霊祭
- 17 (日) 運夏のつどい(鹿児島)
- 19 (火) 20 (水) 甘木婦人教師会
- 21 (木) 清掃御用 10時
- 22 (金) ●月例祭(天徳祭、共励会) 13時半
- 24 (日) 星原家霊祭
- 25 (月) 教誨御用(鹿児島事務所)
- 31 (日) 清掃御用 10時

九月十四日(日) 十時半より
鹿児島地方教会連合会主催

青年のひろば

(鹿児島地方教会連合会主催)

場所：知寛特攻平和会館集合

内容：平和学習

※詳しくは、別紙チラシをご覧ください。

九月二十三日(祝) 十時半より

月例祭に引き続き

秋季霊祭奉仕

祭典後、教話

※霊祭申込用紙をご記入の上お届け下さい。

九月二十七日(土)～二十八日(日)

御本部

生神金光大神御大祭 参拝

交通機関・レンタカー

宿泊先・光風館/旅費・二二〇〇円ほど

十月一日(水) 十時半より

月例祭に引き続き

教祖御生誕祭 奉仕

祭典後、教話。

教会行事

9月

- 1 (月) ●報徳月例祭 10時半
- 4 (木)～5 (金) 教誨師研修会(於・久原教会)
- 9 (火) 清掃御用 10時
- 10 (水) ●月例祭(生神金光) 併せ 10時半
(大神様) 奉養
- 12 (金) (県)教誨師会議 15時 (西本願寺)
- 14 (日) 連青年のひろば
- 19 (金) TSC 小倉教会手帳
教師親善交流会
- 20 (土) 甘木親教会御用
- 22 (月) 清掃御用 10時
- 23 (祝) ●月例祭・秋季霊祭 10時半
- 27 (土)～28 (日) 御本部御大祭参拝
- 30 (火) 清掃御用 10時

10月

- 1 (水) 報徳月例祭 10時半
併せて 教祖御生誕祭
- 9 (木) 清掃御用 10時
- 10 (金) ●月例祭(生神金光) 併せ 10時半
(大神様) 奉養
- 18 (土) 木村家・矢野家 結婚式
- 20 (月) 小倉教会布教140年記念大祭参拝
- 21 (火) 清掃御用 10時
- 22 (水) ●月例祭(天地金) 共励会 13時半
(乃神様)
- 25 (土) 清掃御用 10時
- 26 (日) 加治木教会御大祭 11時
- 31 (金) 清掃御用 10時

《御大祭日程》

- 9 (日) 多良木教会御大祭 11時
- 15 (土) 大口教会御大祭 12時
- 16 (日) 鹿児島教会御大祭 11時

鹿児島地方教会連合会主催の青年のひろば

青年のひろば

令和7年9月14日(日)
10:30～14:30
(10:20玄関前集合)

平和と戦争について考えよう

場 所: 知寛特攻平和会館	プログラム
対 象: 若 者(高校生以上)	10:30 開会式・入席
参加費: 無 料(昼食支給)	11:00 語り部講話(視聴覚室)
持ってくる物: 筆記具	12:00 昼 食
	12:40 研 修(文化会館研修室)
	13:50 閉会式

参加申込: 9月8日までに教会で参加者をとりまとめ、連合会LINE or 加治木教会 矢野家までご連絡ください。
電話・FAX: 0995-62-2895
E-mail: hittobe.konkaji@gmail.com



シロハギ